

Title	環境条件の変化と立地政策-セメント産業の事例を中心として-
Sub Title	
Author	廣田正人(Hirota, Masato) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 広 田 正 人

主査 小 林 規 威 教授

副査 小 野 桂之介 助教授

所属ゼミナール 小 野 桂之介 研

柳 原 一 夫 助教授

環 境 条 件 の 変 化 と 立 地 政 策 — セメント産業の事例を中心として —

本研究は、工場立地政策という全ての製造企業にとって重要な基本問題の構造を、特に環境条件変化との関連において解明しようとするものである。各企業は、その個別工場の立地先選定に際して各種の環境条件を含む極めて多数の要因を考慮しなければならず、しかも、これらの要因の変化に対応して最適立地政策も変わってゆく。しかしながら、こうした関連要因の中には、立地決定への影響度が比較的小さいものや、各企業の特定工場立地ごとのいわば「個有要因」も多く、一つの産業に属する多くの企業の多数の工場立地決定に大きな影響を及ぼす「普遍的要因」の数は比較的少いのではないかと考えられる。

本研究では、上記の如き認識（作業仮説）に立ち、工場立地政策と環境条件変化との関係に関して次のような研究作業を実施した。

- ① 既存の研究成果に関する文献研究
- ② 工場立地政策の基本構造に関する解析的モデルの開発
- ③ 特定産業を対象とした産業事例研究

尚、②の「解析的モデルの開発」に当っては、工場立地政策上最も基本的な課題である“原料立地：市場立地”という点に主眼を置いた。また、③の「産業事例研究」においては、過去100年にわたるわが国セメント産業の歴史的過程を対象として取り上げ、上記の“原料立地：市場立地”という視点に“内陸立地：臨海立地”という視点を加えて分析した。

その結果、「産業レベルで見れば、工場立地政策の変化はかなり少数の環境条件要因で説明される」という当初の作業仮説がかなりの妥当性をもつこと、および、筆者の開発した解析的モデルがかなりの説明力をもつこと、の2点が明らかになった。